



exhibition

特別展示

2023.7.10 mon - 7.27thu

9:00~17:45 (土曜日・日曜日、祝日は除く)

会場 | 金沢市役所第二本庁舎
1F エントランスホール

〒920-0999 石川県金沢市柿木島 1-1

workshop

特別講座

10月7日(土)・8日(日) 10:00~15:00

「リトグラフ」

会場 | 金沢湯涌創作の森
版画工房 1F

講師 元金沢美術工芸大学教授 神谷佳男氏
受講料 参加無料
対象 10歳以上
定員 各10名

<https://www.sousaku-mori.gr.jp>

木製リトプレス機 特別展示

〈木製リトプレス機の歴史とロマン〉

この木製リトプレス機は、パリにあったムルロ工房、世界的にも有名な版画工房で、マティスやピカソ、シャガールが頻繁に出入りしていた工房である。と技術提携契約を結び、本格的なフランス式のリトグラフ版画工房アトリエMMMD(大沢昌助、猪熊弦一郎、東山魁堂などが熱心にかよった)を東京の東麻布で33年間運営してきた益田祐氏所有のものである。

アトリエMMMDには木製プレス機4台と動力で動かす鉄製の大型プレス機2台の合計6台があった。それらはすべて、パリのムルロ監修のもとアンドレ・キエネが調整した19世紀末の機械であり、そのうちの比較的小ぶりの木製プレス機2台はアトリエMMMD設立時(1974年)からあったものだ。

工房閉鎖に伴い2006年秋頃から工房所有のプレス機6台すべてが引受先を探していたが、話が具体的に進まなかつたようである。結局、木製プレス機4台のうち、小型の木製プレス機1台は宇都宮美術館に仮置き、もう1台は東京練馬の個人所有となった。2台あった大型木製リトプレス機のうち、1台は凸版印刷の印刷博物館へ、そして、最も大きい木製リトプレス機は金沢美術工芸大学へ寄贈され、授業等で稼働している。金沢美術工芸大学にはプレス機と多数のリトグラフ作品が寄贈された。その他2台の金属製プレス機のうち1台は印刷博物館へ寄贈されたが、もう1台は残念ながら引受先が見つからずスクラップ化してしまった。

これら木製リトプレス機は19世紀末に製造されたもので、このような木製リトプレス機は、日本では貴重で珍しいものであるが、ヨーロッパでは決して珍しくなく、今もヨーロッパの美術大学や印刷博物館で使用されている。

木製リトプレス機の由来

18世紀末、アロイス・ゼネフェルダーが保水性のある石を利用して始まったリトグラフは、それまでの印刷技術とは全く異なり、油性クレヨンで描いたものを直接紙に刷ることができる画期的な印刷技術です。フランスではロートレックたちがすぐれたポスターを制作しています。

今から半世紀前の1973年、ひとりの日本人がパリのムルロ印刷工房を訪問します。ピカソをはじめ、マティス、ミロ、シャガール、ブラック、ル・コルビュジエ、ジャン・コクトーなど、画家、建築家、文筆家などジャンルを越えた様々な芸術家たちが集い、アイデア豊かな創作と刷り師の確かな技術を総合させた印刷工房を営んでいたのがフェルナン・ムルロ(1895-1988)でした。

自由な雰囲気で作活動する工房に感動した益田祐作(1931-)は、翌年東京にフランス式リトグラフ版画工房「アトリエMMG」を創設します。ムルロと技術提携契約を結び、機材一式を日本に輸入します。

本機は、輸入された4台の木製リトプレス機のうちの1台で、昨年益田の計らいで湯涌創作の森に運び込まれました。

19世紀に製造された木製プレス機を日本で見かけることはほとんどありません。これまで故障もなくその機能性と美しさを今日に伝えています。